

The place name, Schinomiyamura, the lectotype locality of *Veratrum mackii* Loesn. f. var. *maackioides* (Loesn. f.) Hara should be read as Ikkumura because of transcriptional error. (高知大学 教育学部生物学教室)

□日光の動植物編集委員会(編): 日光の動植物 774 pp. 1986. 枳の葉書房, 鹿沼. ¥16,800. 日光に野生する動植物についての解説書である。本書はⅣ部からなり, Ⅱが日光の植物で, 研究史・森林植生・垂直分布・地域ごとの植物の解説・植物目録からなっている。Ⅰは日光の自然の概説, Ⅲは動物で, Ⅳは自然破壊と保護の重要性にあてられている。日光の動植物を扱った類書には, 日光東照宮から発行された「日光の植物と動物」(1936)があるが, それ以後は, まとまったものはない。本書は, これとは全く別個に新しい見地で執筆されたものであると, まえがきに書かれている通り, 事実, 動物には現地調査に基づく研究の成果によるものが多い。大場秀章氏が編集した日光に生育する(帰化植物も含む)高等植物の目録は, 低山地帯・山地帯・亜高山帯・高山帯のどこに分布するかがわかるようになっており, この地方の植物相を概観するうえで大いに参考となる。景観・植物・動物のカラー写真も多く載せられており, 日光の自然の概要を知る上で格好の書と思われる。(秋山 忍)

□Hecht, M.K., B. Wallace & G.T. Prance (ed.): **Evolutionary biology**, vol. 20 472 pp. 1986. Plenum Press, New York. \$59.50. Evolutionary biology シリーズは 1967 年の vol. 1 以来, 生物科学のあらゆる分野の諸種の問題に関する review 論文や原著論文をのせて来て, 重要な文献となっている。今回は, このシリーズの初期から編集協力者として努力して来た Dr. W.C. Steere (ニューヨーク植物園名誉園長) の 80 歳を記念して企画されたものである。7 編の論文が集められていて, 最初に W.R. Buck による Dr. Steere の生いたち, 発表論文リストが紹介されている。他の論文は, Biochemical systematics: II. A reprise (D.E. Giannasi & D.J. Crawford); Species selection as a causal process (N.L. Gilinsky); Species are individuals: a review and critique of the argument (O. Riepel); A morphogenetic approach to the origin and basic organization of tetrapod limb (N.H. Schubin & P. Alberch); Developmental evidence for amphibian origin (J. Hanken); The origin of amphikinesis in lizard: a problem in functional morphology and evolution of adaptive system (T.H. Frazzetta) で, いずれも興味深い。とくに, “Biochemical systematics” は 200 頁を起す論文で, flavonoids, terpenoids, alkaloids など二次代謝産物から, nucleic acid, amino acid などにわたるまでの研究の現状と, それに対する著者らの解釈や批判がふんだんにあり, 読みごたえがある。(井上 浩)